

和泉市市民活動推進支援事業支援対象団体エントリーシート

2024年9月30日

和泉市長 あて

団体名 「障害」をもつ仲間と共に歩む和泉若者の集い
実行委員会
代表者名 古宮 展典
所在地 和泉市鶴山台1-1-1
電話番号 0725-41-2250

和泉市市民活動推進支援金の交付を受けたいので、和泉市市民活動推進支援金交付要綱第7条の規定により、関係書類を添えて、支援対象団体の募集にエントリーします。

事業名	第35回「障害」をもつ仲間と共に歩む和泉若者の集い
申請コース	(1) 公益活動支援コース ☐ チャレンジコース ☒ ステップアップコース (2) 地域活性化コース ☐ 地域活性化コース
事業費総額	330,000 円 (うち、対象経費 230,000 円)
支援金 交付申請額	115,000 円

1. 添付資料
- (1) 団体概要調書（様式第2号）
 - (2) 規約、会則又は定款及び役員名簿の写し
 - (3) 事業計画書（様式第3号）
 - (4) 収支予算書（様式第4号）
 - (5) その他市長が必要と認める書類

団 体 概 要 調 書

フリガナ	ショウガ イモツカマトモニアムイ ミカモノツ イ ジ ッコウイナカ		
団体名	「障害」をもつ仲間と共に歩む和泉若者の集い 実行委員会		
団体の目的	障害の有無に関わらず、青少年が一日共に過ごす場、お互いを理解できる場を提供する。		
市内事務所の所在地	〒594-0013 和泉市鶴山台 1-1-1 【専用事務所 ・ 住居と兼用 ・ <u>その他</u> （信太中学校）】		
	電 話	0725（41）2250	F A X 
フリガナ	フルミヤ ヒロノリ		
代表者氏名	古宮 弘典		
連絡先 ※この申請について 問い合わせをしたと きに対応できる方	（連絡責任者氏名）※ フリガナ フルミヤ ヒロノリ 古宮 弘典		電 話 0725（41）2250 F A X 
（住所）上記事務所以外に資料送付を希望する場合はご記入ください。			
設 立 年 月	1986 年 9 月	主な活動地域	和泉市
会報等の発行	有（ 1 回発行） ・ 無	会員数	22 人
メールアドレス	@		
ホームページ	https://izumi-wakatsudo.jimdofree.com		
主な事業内容	年に一度、【「障害」をもつ仲間と共に歩む和泉若者の集い】を開催している。イベントの中では、出店、舞台発表、交流を企画し、障害の有無に関わらず、青少年が交流し、お互いの学びになる一日を提供している。		
主な活動の実績	38 年間にわたり、活動をしている 2004 年に大阪府から大阪府福祉ボランティア表彰を受賞 地域のイベントの1つとして根付いている。		
国・府・市及び 各種団体等から の他の補助金及 び委託実績 （過去3年間の 実績を記載）	年度	名称	金額（円）

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

事業計画書

1 事業名	第35回「障害」をもつ仲間と共に歩む和泉若者の集い
2 申請コース	(1) 公益活動支援コース ☐ チャレンジコース ☒ テップアップコース (2) 地域活性化コース ☐ 地域活性化コース
3 事業の必要性（※別紙添付可）	
①事業を実施する前提となった問題点、課題、社会背景等 ・ 障害を個人の問題とし、法整備や偏見・差別をなくすための動きがほとんどない状態だった。 ・ 障害のある子どもが障害を理由に、地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校に通えず、自宅で過ごすなど、就学さえできない実態があった。 ・ 障害のある子どもの中学校卒業後の進路について、進学を断られたり、働く意欲はあるのに働く先がなく進路を保障できない実態があった。	
②事業を実施することにより達成しようとする目標、期待される効果 ・ 障害者への偏見、差別の解消 ・ 障害のある子どもの進路保障 ・ 障害の有無に関わらず、すべての人たちが自分らしく生きる地域社会の創造	
4 事業内容（※別紙添付可）	
①問題点、課題を解決するためにどのような方法を用いてどのような事業を実施しますか。 障害者への偏見、差別をなくすためには、同じ時間に同じ空間で過ごすことが大切である。事業では、出店、交流、発表などをおしてともに過ごすことができる。出店・交流・発表は和泉市内の小中学校に所属する子どもたちや社会福祉施設の利用者さんなどが行う。出店は、ミニゲームや飲食など多岐にわたり、交流は小中学生が中心となり、参加者全員でレクリエーションを行う。発表はダンス、歌、手話などを行っている。イベント自体にはどなたでも参加することができ、すべての活動において障害を乗り越え、ともに過ごすことができる。その中で、対話や協働を通して互いのことを知り、それぞれがこれからの一人ひとりを大切にする生き方につなげていく。また、当日だけでなく、事前・事後での各団体でのとりくみや、参加者が集う機会をつくることで、より深くかかわることができる。事前には参加者交流会を行い、本番に向けての参加者どうしのつながりをつくる機会を設けている。事後では各団体の代表者が集まり、今年度のふりかえりや次年度の活動に向けて意見を出し合っている。 令和6年度の活動を踏まえ、障害だけではなく、多文化共生の観点や男女共生の観点も多様性の尊重という意味で広げていきたい。	
②実施期間（日時）	2025年11月8日（土）
③実施場所	エコールいずみ アムゼ広場
④主な対象者	和泉市民を中心に、イベントに興味のある人すべて
⑤参加予定者数	300人
⑥告知方法	和泉市広報・ブログ・ホームページ・Facebook・Twitter

5 事業スケジュール	
次期（月）	内容
7月	実施要項配布
8月	第1回実行委員会
9月	第2回実行委員会（参加者説明会）
10月	第3回実行委員会（参加者交流会）
11月	第4回実行委員会（直前打合せ）
	第35回「障害」をもつ仲間とともに歩む和泉若者の集い
12月	第5回実行委員会（ふりかえり会）
6 審査項目からみた事業の自己PR ※要綱別表第2審査基準参照 （実施事業について、どういう点が優れているかなどを審査項目ごとに記入してください。）	
①公益性	この事業が始まった当時の状況は、障害のある子どもの未就学の状況が各地域にまだ多く残る状況があった。そんな中、地域に暮らすすべての子どもたちが地域の学校に通い、仲間とともに過ごし、ともに学べるようにしていく運動の中で、その一助となるようにと、思いをもってとりくんできた。38年間の営みの中で、社会の状況が改善してきた部分があるが、障害のある子どもたちの進路保障についてはまだまだ課題が残っている。その課題を解決していくために、また、障害者への偏見・差別の解消に向けた事業にしていく
②継続性	38年継続している事業である。和泉市内の各学校園所、作業所と連携することにより、事業の成果を広く知らせることができている。また、「参加協力券（1人200円の協力金を含む）」という形でカンパ金を募り、自主財源の確保にも努めている。コロナ禍においては、テーマソングの作成・横断幕の作成など集合型で実施できなくても、各団体での作業を通して若つどを継続してとりくんできた。令和4年度から久しぶりに若つどを開催し、今年度も引き続き実施する。
③実行性	事業の目的を実行委員会で毎回確認しながら進めている。平成30年度から会場をアムゼ広場に変更したことで、これまで継続して参加していた団体が参加できないということがないようにするため、送迎バスのレンタルの費用を予算に計上するなど予算確保に努めている。中心となる人材は継続して運営に参加する一方で、この事業の意義を理解し関わる人材を事業の参加者の中から、さらに確保していく。活動の母体を実行委員会形式にし、参加団体から必ず運営に関わってもらう点は人材確保につながっていると考え。
④協働性	会場の施設を使用する一般の方も参加することができ、幅広い世代で交流できるようになっている。出店や交流を通して、市民と各団体が一体となり、事業の目的達成に向けてとりくむことができる。
⑤公開性	和泉市の広報冊子や独自にSNSなどを用いて、周知活動にも努めている。平成30年度から、会場をアムゼ広場にすることで、参加団体だけでなく、会場の施設を使用する一般の方も参加することができ、幅広い世代で交流できるようになっている。
⑥発展性 （先駆性・展開性） （集客性）	毎回、事業後にはふりかえり会を実施し、成果と課題を明らかにしている。その内容をもとに、次年度のとりくみに活かしている。今年度は参加者の交流の場面を増やそうということで、若つど当日に参加者が交流できるレクリエーションを実施した。事業をより良いものにしていくため、参加者の交流方法や、レクリエーションの内容等、改善できる部分は改善し、新しいことに取り組んでいくことも考えている。子どもたちの参加も多いことから、その子どもたちが育っていくなかで、将来に向けて、いろんな地域にこの事業の意義を広げていくことができる。事後には報告書を作成し、和泉市内の小中学校すべてに配布し、事業の発展につなげていく。

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

収支予算書

事業の名称：第35回「障害」をもつ仲間と共に歩む和泉若者の集い

1. 【収 入】

（単位：円）

項 目	金 額	積算根拠
支援金	115,000 円	和泉市市民活動推進支援金
事業収入	115,000 円	協力金(200 円 x575 人)
自主財源	100,000 円	金券販売 ※若つど当日に参加者が購入し、店舗でしようする。
合 計	330,000 円	

2. 【支 出】

（単位：円）

費 目	金 額	積算根拠（数量、単価等）
報償費	2,000 円	手話通訳謝礼(1000 円 x2 人)
消耗品費	20,000 円	紙代・事務用品・報告書送付用封筒代 ※参加団体、和泉市学校園へ送付
印刷製本費	40,000 円	報告書印刷代 ※活動報告を行い、若つどの発展につなげる。
役務費	8,000 円	郵送代・行事保険料
使用料及び賃借料	160,000 円	送迎バス一日レンタル代（2 台分）
その他（対象外）	100,000 円	金券換金分 ※当日の売り上げを各団体ごとに売り上げ分を換金する。
合 計	330,000 円	
対象経費	230,000 円	

※費目は、別表第3（第10条関係）に記載されているとおりに記載してください。

※実績報告書の提出時に収支決算書とともに領収書等を添付する必要があります。

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。